

年末のごあいさつ（一年を振り返って）

副会長（広報担当） 小林建夫

今年も残り少なくなりましたが、会員の皆様におかれましてはこの一年如何な年でしたでしょうか。

ふるさと応援団木島平会の年間行事として、一月の新年親睦交流会から始まり、六月の総会の開催のほか、昨年に行



った本会の創立十周年を迎えたのを機に、今後の運営に資するためのアンケート結果に基づき「十年のあゆみ」の記念誌発行と、秋のふるさと旅行を新たに実施してまいりました。その他会報の発行等を行い計画いたしました諸行事等が無事に終了し一年が過ぎようとしております。本会の事業等に関しましてご意見等があれば事務局までお寄せいただければ幸いです。

一方、この一年国内外に目を向けてみますと、不安定な社会情勢による破壊行為や自然災害等による悲しい出来事などいろいろありました。また、その反面ノーベル賞の受賞、世界遺産の登録など明るい話題もあったと思います。

年の暮れ、会員の皆様におかれましては何かとお忙しい時をお過ごしのことと思いますが、ご自愛くださり健やかな新年をお迎えくださいますようお願い申し上げます。

最後に会報にご投稿くださいました各位にこの場を借りて御礼申し上げますと共に、会員の皆様からの積極的な投稿をお待ちしております。

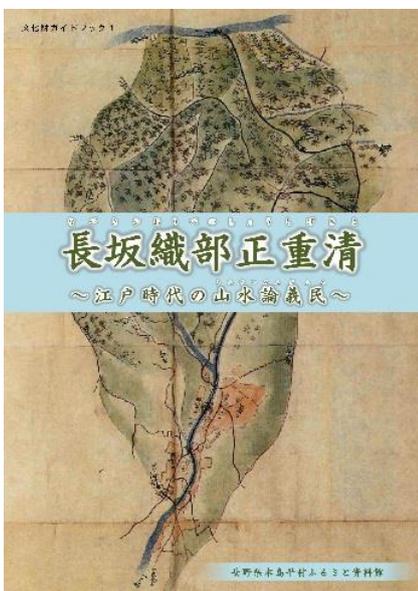
豊富な水はこの人のお蔭！長坂織部の物語

おいしい米の産地である木島平村も、昔は水利権の争いが絶えませんでした。元禄8年（一六九五年）、樽川の源流である「大持坂」を巡り、上木島村と夜間瀬村が論争を繰り広げました。この戦いの頭取となったのが、上木島村の神主であった「長坂織部重清翁」です。

深い識見と強じんな精神力で、江戸の裁判所や山に籠って警ら巡視、訴訟書類の作成など、訴訟に身を投じ、元禄11年（一六九八年）に見事その訴訟に勝訴しました。

この歴史は、現在も木島平村に伝わり、長坂織部を祀った「山水元神社」の建立により、先人が守った「山と水」を今も大事にしています。

長坂織部の活躍をまとめた、長坂織部の物語は、現在、村のふるさと資料館で展示されているほか、文化財ガイドブックを作成し販売しています。←



- ◆価格 200円
- ◆販売場所
木島平村教育委員会
木島平村農村交流館
- ◆問い合わせ
(0269)82-2041

木島平の美味しさを詰めよう アイデア弁当コンテスト

「文化の日」の優雅な夕げ

大町（柳久保）出身 藤島 群平

11月24日（祝）農の拠点施設「FARMUS（ファームス）木島平」オープン前イベント、「アイデア弁当コンテスト」が開催されました。村内の高校生、主婦の方、飲食店店主をはじめとする13チーム（個人）の方から合計14点の出品をいただきました。

当日は会場にお越しいただいた方もご試食いただき、大盛況のまま終了することができました。

ご応募いただいた作品は地場産品の活用例として6次産業化に役立てます。

最優秀賞



優秀賞



優秀賞



入選



入選



入選



今年の文化の日は素敵な日にしようとする「その荷物」が届いた日から期するものがあった。

それは、私たち夫婦が、共に長野県の北信地方出身ということにもある。

最近、老境に入って食事の用意も大儀そうな家内に代って、朝昼と従来と同じ食事、そして夕食の時間になって食卓に並べられたのは、故郷の多くの食材で飾られた。

白くつやつやなご飯、大根と大きな豆腐たっぷりのナメコが入った、故郷づくりの味噌を使った味噌汁。おかずこそ海のものだったが、食後の果物は故郷の甘い柿という素敵な味わい深い夕食であった。鮭は大海へ出て故郷に流れる川の水を忘れないと言われていますが、人間も故郷の食材を想う気持は同じと思うなど、まことに良き日であった。

「その荷物」というのは、穂高きのこセンターから送っていただいたものである。ありがとうございます。



全報原稿募集中!

【送付先】〒389の2392 木島平村役場内 ふるさと応援団事務局

fax 026908204121 ✉ kicho@kijimadaira.jp まで

郵送・FAX・メールいずれかの方法でお願いします。